

# 紙芝居シナリオ <キッパリと、あきら。松あきら<sup>ものがたり</sup>物語>

紙芝居13枚(表紙含む)のシナリオです。①～⑬ごとに紙芝居をめくってご利用下さい。

- ① (表紙)「キッパリと、あきら。松あきら<sup>ものがたり</sup>物語」のはじまり、はじまりー！

-----※ 紙芝居めくる ※-----

- ② 松あきは、神奈川県川崎市で育ちました。家は鉄工所を<sup>いえ てっこうしょ</sup>経営し、<sup>けいえい</sup>一歩外<sup>いっぽ</sup>に出れば、<sup>まちこうば</sup>町工場のエントツが立ち並び、<sup>なら</sup>車が行き交う<sup>い か</sup>国道。裏通りに入れば、<sup>かんらくがい</sup>歓楽街…。川崎は不思議な<sup>ふ し ぎ</sup>温かさのある<sup>あたた</sup>庶民の<sup>しょみん</sup>町。そんな町で、松あきは<sup>そだ</sup>育ちました。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

- ③ 松あきは小学校から高校1年まで、<sup>よこはま</sup>横浜の<sup>やまて</sup>山手にある<sup>ふたば</sup>雙葉学園に通いました。そして16歳で<sup>あこが</sup>憧れの<sup>たからづかおんがくがっこう</sup>宝塚音楽学校に入学します。その後、18歳で<sup>はつぶたい</sup>宝塚の<sup>ふ</sup>初舞台を<sup>つ</sup>踏み、<sup>かさ</sup>努力を<sup>てんせい</sup>積み重ね、<sup>かいか</sup>やがて天性の才能が<sup>かいか</sup>開花し、<sup>はなぐみ</sup>花組<sup>のぼ</sup>トップスターに登りつめます。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

- ④ 宝塚といえば、<sup>はな</sup>華やかさに<sup>うば</sup>目を奪われますが、<sup>はげ</sup>激しい<sup>ぶたい</sup>舞台だけに<sup>けが</sup>怪我や<sup>た</sup>病氣も<sup>た</sup>絶えません。このような中、松あきは、<sup>ろうどうくみあい</sup>労働組合の<sup>かいぜん</sup>委員として、<sup>たいぐうこうしょう</sup>待遇交渉などで<sup>ぜんめん</sup>前面に<sup>ろうどうじょうけん</sup>立って、<sup>かいぜん</sup>労働条件を<sup>かいぜん</sup>改善していきました。松あきらの「キッパリ」と<sup>い し せい</sup>ものを言う<sup>そだ</sup>姿勢は、この頃<sup>そだ</sup>から、<sup>そだ</sup>育っていたの<sup>そだ</sup>かもしれませ
- ん。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑤ 花組のトップスターを4年務めて、宝塚を退団した松あきは女優として舞台、テレビで活躍した後、1988年に国際弁護士の西川知雄さんと結婚。そこから、新しいドラマが始まります。

夫には小学校6年生の娘がいました。実の母は病気で亡くなっています。新しいお母さんができ、大喜びだった娘も、同居した途端、「うるさい。あっちへ行け !!」と、まるで別人です。この娘の一言が、甘い新婚生活への夢を吹き飛ばしました。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑥ 翌日から、娘とのバトルです。学校にも行きたがらず、行けば問題を起こして呼び出される。昼は反発を繰り返し、夜になるとそっと布団にもぐりこんでくる娘。娘が荒れたのは、母の愛に飢えていたからです。「なんとかしても、この子を幸せに育てなければ...」と、松あきは体当たりでぶつかって、二人で様々な葛藤を乗り越えていきました。その後、娘はイギリスに留学し、現在、国際弁護士として活躍しています。今では政治家「松あきら」の最大の理解者となっています。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑦ 娘の留学先を訪れるたび、その教育環境のすばらしさに、松あきは感動しました。しかし、ひとたび国内に目を転じれば、「荒れる子ども」は、我が子だけの問題ではありませんでした。

——自分自身の経験を活かして、教育問題に取り組みたい。

その思いが、松あきを政治の世界へと向かわせ、1995年参議院神奈川県選挙区に初挑戦し、みごと当選しました。

意気揚々と国会に乗り込んで行った松あきでしたが、迷路のような国会議事堂の中で迷子になってしまいました。そんな松を、『何もできないタレント議員』というふうにテレビは面白おかしく報道したのです。

議員初日のくやしい思い……ここから、松あきの戦いの日々は始まったのです。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑧ 国会議員になって、まず手がけたのは教育問題です。公約にスクールカウンセラー配置を掲げた松あきに、ある時、高校の校長会で、校長の一人がこう言いました。「学校に新しい人員を配置するのは大変だ。芸能界出身のあなたが、どういうつもりで言っているのか？」と。

そこで、松は娘を育てたときの苦労話をしました。「娘が荒れたとき、中学の担任と連携を取り合って乗り越えてきました。生徒、親、教師、皆、悩みを抱えています。第三者の目が必要なのではないのでしょうか」松あきの切々と語った体験は、校長たちの心を打ち、納得が生まれました。このような訴えを積み重ねる中で、学校にスクールカウンセラーが配置されることになったのです。

現在、小・中・高あわせて、約1万校に配置されています。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑨ 松あきらが、次に挑んだのが「子ども読書運動」です。

すぐキレル子ども、いじめ、学級崩壊など、問題の多い現代の教育現場。

松あきは自らの幸せな子ども時代を振り返りました。母親は毎晩、松を抱きしめて、絵本を読んでくれました。

松はその温かな体験から「読み聞かせ運動」を提案しました。幼児期の絵本の読み聞かせが、子どもの心の安定につながると訴えたのです。

その効果を実感してもらうために、国会で絵本を朗読しました。初めはいぶかしげに聞いていた議員たちでしたが、松あきらの読む絵本の世界に引き込まれ、深い感動が委員会の空気を変えました。

このことが「子ども読書推進法」の制定につながっていきました。今では、ヤングミセスを中心に、全国に読み聞かせ運動が広がり、また「朝の10分間読書運動」も、多くの学校で取り入れられています。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑩ 教育問題で、松あきらが10年越して勝ち取った実績があります。

「高校卒業程度認定試験制度」です。いまや高校中退者は年間13万人以上に、のぼります。そんな若者が例えば、「美容師になろう」と決意しても、高校を卒業しているか、大学入学資格検定試験を通らなければ、専門学校へは行けません。

松は「せめて高卒と認める試験の実施を！」と訴えました。しかし、役人からは「大検がありますので」との冷たい返事。そこで松は、20科目もある大検の問題集を委員会に持って行き、実際に議員たちにやってもらいました。しかし、皆、うなってしまうて、誰もできません。

「こちらは東大卒、あちらは外国の大学院卒。それでも皆さん、難しいようですね。検定試験は、挑戦しよう！という人を応援するためのものなのか、それとも振り落とすためのものなのか、どっちなんですか！？」と強く訴えました。正しいことは、言い続ける、決してあきらめない。松あきらの粘り強い挑戦で、ついに一昨年、大検に替わって、「高卒程度認定試験」ができたのです。

今年4月、政府は、少年院や刑務所の収容者が施設内で受験できるようにすると、発表。これにより、若者の再チャレンジの道が、さらに大きく開けました。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑪ 松あきらは多くの女性との対話を通し、女性政策にいち早く取り組んできました。「支払いの時にこそ、お金が必要なのに」との切実な声を受け、「出産育児一時金の前倒し支給と増額」を実現しました。さらに、「女性専門外来の推進」や「不妊治療への助成金」、「児童手当の増額」など、少子化問題を見すえた子育て支援に全力をあげています。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑫ 皆さん、マタニティマーク、ご存知ですか？

これは「私は妊娠にんしんしています」と周囲しゅういに知らせるマークなんです。見た目では分かりにくい妊娠初期にんしんしよきの女性じよせいに、配慮はいりよを求めるためのものです。松あきらが国会うったで訴え、既に一部すでの自治体いちぶやNPOじちたいで使われていた妊産婦にんさんぶバッジぜんこくとういつの全国統一ていげんマークを提言じつげんし、実現じつげんできたものです。

現在おも、主な駅おもでマタニティマークの配布はいふも行われるようになりました。

また、さらに、松あきは母子手帳ぼしてちょうと一緒に配布はいふするように提案ていあんし、平成19年度じつげんの予算じつげんに組み込まれ、実現じつげんに向かっています。命はぐくを育む妊婦にんぶへの配慮はいりよを求めてきた松あきらの挑戦ちようせんがまたひとつ実みのりました。

-----※ 紙芝居めくる ※-----

⑬ 皆さん、いかがでしたか？ 松あきらが初めて国会ふに足を踏み入れて早や12年は。

その間かん、経済産業副大臣けいざいさんぎょうふくだいじんとして、中小企業対策ちゅうしょうきぎょうたいさくにも果敢かかんに取り組み、また、自らの経験みずかを活かした芸術・文化振興げいじゆつ・ぶんかしんこうでも実力じつりよくを発揮はつきしています。

さまざまな分野ぶんやの専門家せんもんかなど、知識・経験ちしき けいけんの豊かな議員ゆたが集う「良識ぎいんの府つど」、参議院りょうしき。いまや、松あきは政党ふを越え、参議院さんぎいんになくてはならない存在そんざいとなりました。

松あきらの戦いはいよいよこれからです。松あきは、キツパリと語りかた、行動こうどうします。さあ、三期目さんきめに挑戦ちようせんです！

【 完 】